

# 尿中クレアチンで補正できる尿蛋白、尿アルブミン試験紙の検討

石黒隆一、五郎丸亜希、山本成郎、梅木一美

宮崎大学医学部附属病院 検査部

<はじめに> 早朝尿の定性検査が基本となるが、外来の患者尿は、随時尿で検査されることが多く、尿中微量蛋白量を推定することは困難である。今回我々は、尿中クレアチンで補正可能な尿中微量蛋白測定試験紙（半定量法）を用い尿蛋白定量値（自動分析法）と比較し有用性を検討したので報告する。

<対象と方法> 検討したサンプルは患者から2次利用に同意の得られた2012年8月から9月に尿一般検査室に提出された504検体を対象とした。試験紙法は、ウロペーパー $\alpha$ -III-11（栄研化学（株））を用いた。また、測定機器はUS-3100Rplus（テラメックス（株））を用いて測定した。尿中蛋白定量はマイクロTP-テストワコー（和光純薬（株））を使用し、尿中アルブミンは、オートワコー マイクロアルブミン（和光純薬（株））、そして尿中のクレアチンはダイヤカラー・リキッドCRE-S（東洋紡（株））を使用した。これらの測定はc16000（東芝メディカル（株）東京）を用い、提出された当日に測定した。

<結果> 1、同時・日差再現性 : 市販のコントロール

尿を用いて同時再現性（n=10）日差再現性（7日間）を行い1ランク以内の良好な結果が得られた。試験紙法と定量法の比較:尿クレアチンの試験紙法と定量法の一致率（以下、一致率と略す）は82.3%であった。また、尿蛋白の一致率は81.9%であった。さらに尿中アルブミンの一致率は77.0%であった。クレアチン値で補正した蛋白定量値と試験紙法の一致率は、77.7%であった。クレアチン値で補正したアルブミン定量値と試験紙法の半定量値は、72.4%の一致率であった。〈結語〉今回の検討した、汎用尿定性用試験紙で、尿クレアチン半定量値で補正した尿蛋白定性値や尿中アルブミン定性値を出すことが可能となり希釈尿による擬陰性や高濃度尿による擬陽性の軽減が可能となる。また保険診療上、微量アルブミン定量は制限があるため、汎用検査として実施可能な尿定性試験紙による微量アルブミンやクレアチン値による補正蛋白量の測定はスクリーニング検査として有用である。

連絡先 : 宮崎大学医学部附属病院検査部尿検査  
0985-85-9768 rishiguro@med.miyazaki-u.ac.jp